

バイオフィードバック技能士認定講習会(医学系)6月21日(土)13:30～14:30

【演題名】悪性腫瘍診療における整形外科の役割

【発表者名】

○柴田宏明¹⁾・笹井健吾¹⁾・伊藤浩¹⁾

【発表者名詳細】

1) 旭川医科大学整形外科

【抄録】

整形外科は骨・関節・筋肉・神経など運動器の診断・治療を担い、外傷や変性疾患、小児疾患に加え、悪性腫瘍でも重要な役割を果たす。①骨軟部腫瘍、②がんの骨転移、③がん口コモが主な対象である。骨軟部の悪性腫瘍は全がん患者の1%未満と稀だが、代表的な疾患である骨肉腫やユーイング肉腫はAYA世代(15～39歳)に多く、切断や腫瘍用人工関節を要することもあり、患者個人や家族、社会に与える影響は大きい。がんの骨転移は現在全国で数十万人にのぼり、各がん種で予後が延びる中、手術・放射線・骨修飾薬などの治療が行われる。がん患者は非がん患者よりも口コモ度が高く、骨転移や麻痺がある場合には整形外科的視点からのリハビリ設計が求められる。これら悪性腫瘍診療における整形外科の役割について説明する。